

# 行動問題への対応の基本・系の活動



右のQRコードから  
左のページの表示を  
お願いします。

あんschool R5.4.26



サンクスシェア  
代表社員 田中 聡



# Point①

行動問題はなぜ起きる？



**起きる行動には原理原則があります！**

# 行動問題の4つの機能

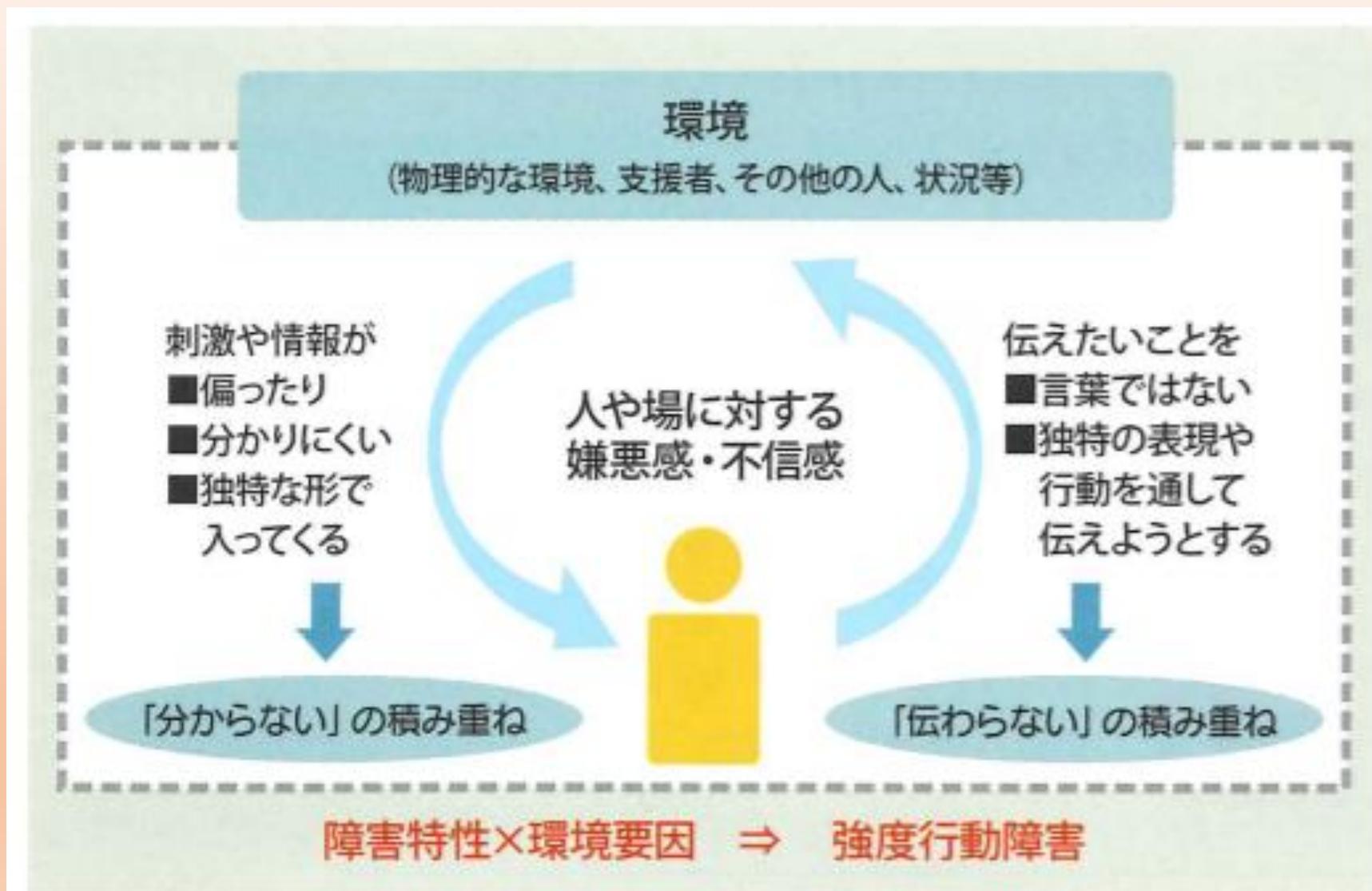
機能	生じる結果	なくなる結果
注目	注目が少ない状況 →行動→周囲の注目	いやな注目 →行動→消去
活動 や物	物や活動が入手できない状況 →行動→入手できる。	いやな物や活動 →行動→消去
感覚 刺激	することがない状況 →行動→感覚刺激	いやな感覚刺激 →行動→消去
逃避	いやなことが目の前にある状況 →行動→やらずにすむ	

◆ 要求・要望・目的がある ⇒ 行動（含不適切） OK！

◆ 無意識レベル ⇒ 行動 対応困難！



# なぜ強度行動障害になるのか？



## Point②

# 行動問題の発生を減らす



**人に頼る選択肢を選ばないようにします！**

# 行動問題を防ぐサイクル

## ① 起きてしまった行動問題をできる限り早く収める

- ・ 原因や要因の削除
- ・ クールダウンスペースの確保

## ② 落ち着いたらトラブル処理をする

- ・ 謝罪や仲直り、問題である理由の説明など
- ・ 今後の約束を決めさせる（決める）

【理由・要因が  
明白な場合】



## ③ 約束に沿った対応をする

- ・ 決めた約束を決してスルーしない（すべてのスタッフ）

---

---

## ① 起きた問題行動を分析する

- ・ 【状況】 【きっかけ】 【生まれた結果】 を洗い出す

## ② 行動問題がおこらない環境設定をする

- ・ 事前の約束を徹底する

【理由・要因が  
不明確な場合】

## ① 起きてしまった行動問題をできる限り早く収める

- ア 安全の確保
  - ・ 本人や周囲の子どもがけがなどしないよう安全を確保する（自傷の軽減 他児の移動など）
- イ 刺激の除去
  - ・ いやになっている刺激を取り去る（視覚 聴覚 触覚 におい など）
- ウ 刺激の制御
  - ・ 現状以上の刺激を与えない（クールダウンスペース クールダウン部屋）
- エ 受け入れ
  - ・ まずは気持ちのすべてを受け止める
- オ 切り替え
  - ・ 本人が興味ある話題や物を使って気持ちを切り替える
- カ 見守る
  - ・ 症状が治まるまで安全を確保して待つ

## ② 落ち着いたらトラブル処理をする

- ア 聞き取り
  - ・ 状況や原因等について話を聴く
- イ 不適切行動の確認
  - ・ なにがよくなかったのか？を共通確認する
  - ・ なぜよくなかったのか？を説明、説得する
- ウ 対処方法の確認
  - ・ どうすればよかったのか？を共通確認する
- エ 行動の修正
  - ・ 正しい行動のやり直し（練習を含む）
  - ・ 謝罪や仲直り等の介入
- オ 今後の方針確認
  - ・ 今後のふるまい方の約束をする
  - ・ 今後の目標、取り組む内容や方法を確認する

### ③ 約束に沿った対応をする

#### 才 今後の方針確認

- ・ 今後のふるまい方の約束をする
- ・ 今後の目標、取り組む内容や方法を確認する

- ・ 目標や取り組みの内容と方法を「ルール化」する。

Point ① ルール化は、可能な限り『子ども自らが決める方向で』

Point ② 決して『押し付けにならないように』

Point ③ 取り組みの評価は、随時、定期的に！

Point ④ 取り組みの成果には、必ず評価（＝賞賛・報酬）を！

# ① 起きた行動問題の分析

## 【理由・要因が明白な場合】

A (状況)

店でほしいものをみつける



B (行動)

「買って～」と  
大声で泣き叫ぶ



C (結果)

ほしいものが  
手に入る

レベルⅠ

『A』の状況をつくらない

レベルⅡ

『C』の結果を与えない

レベルⅢ

原因・要因が  
明確になれば

【3つのポイント】

# ① 起きた行動問題の分析

## 【理由・要因が不明な場合】

### 記録様式の例

さとる さんの行動記録

### 【記録を録る】

- 他の利用者につかみかかる・・・●
- 危険を感じた・未然に防いだ・・・○
- その他の攻撃等・・・×

活動	10/13 (月)	10/14 (火)	10/15 (水)	10/16 (木)
来所・準備	●	○	×	
宿題の時間				
休憩の時間	● ● ×		○○	
集団の活動		××		
昼食・昼休み	○		● ○	● ○
散歩				
自立課題		●		
帰り	○ ×			● ○

## ① 起きた行動問題の分析

## ① 変化を把握する

### 【変化を把握するための記録】

1. 問題となっている行動に着目する  
例) 頻度、強度、持続時間
2. 記録する時間帯や場面等を決める  
例) 1日を通して、時間の区切りごとに、場面ごとに
3. 継続できるように工夫する  
例) 既にあるものを活用する、置く場所、期限を設ける

### 【期間を決めて変化をまとめる】

- ひとめでわかるように整理する  
例) 折れ線グラフ、一覧表

## ① 起きた行動問題の分析

## ② 原因を考える

### 【関連しそうな情報を集める】

#### ■障害特性やスキルをもう一度調べる

例) 苦手なこと、得意なこと、できること、できないこと

#### ■生活全体の状況を確認する

例) 家庭・家庭の状況、生活のパターン

#### ■生理・医学的な情報を収集する

例) 睡眠、病気、服薬、周期的な変化

### 【できているとき・できていないときの環境を詳しく見る】

#### ■問題が生じた前後の状況を整理する

例) 機能的アセスメント（機能分析、ABC分析）

## ② 行動問題が起こらない環境設定をする

人に頼る選択肢を選ばないようにします！

「もの」 ・・・ものを使って環境そのものをコントロールする

例：壁向きに配置した机で学習する

「ひと」 ・・・いわゆる誰が対応するか 人による対応の仕方

例：重要なルールをインプットしてほしい時、管理者に話をしてもらう

「こと①」 ・・・活動内容やイベントのコントロール

例：「今日のおやつコーナー」などスケジュールボードの提示をする

「こと②」 ・・・空間・場所のコントロール

例：学習やおやつの時間に座る席を指定する

「こと③」 ・・・時間帯や時間の長さ、順序などのコントロール

例：本人合わせた、時間入りのスケジュール表を準備する

見える

見えない

## ② 行動問題が起こらない環境設定をする

## 宿題時の飛び出し！

- ① 順調に宿題（ローマ字の読み書き）を開始
- ② 「教えて～！」 Aスタッフが対応
  - ・ローマ字表を持ってくる
  - ・ホワイトボードを持ってくる
  - ・他の児童から呼ばれて、本人から離れる
- ③ 宿題を紙吹雪状にびりびりと破る
- ④ Aスタッフ、Bスタッフが制止する ➡ 施設を飛び出し！

## ② 行動問題が起こらない環境設定をする

## 宿題時の飛び出し！

もの

ひと

こと

本人

- ・ 落ち着いて学習できる環境として仕切りがある机を準備
- ・ 小文字が載っているローマ字表を準備
- ・ 模写サポート道具の準備（ホワイトボード、模写台など）

- ・ 本人及びその場から離れる際の本人への声かけの工夫
- ・ 本人を待たせる際の明確な指示の工夫（時間指定など）

- ・ できる範囲で「自立的」な行動を促す基本的姿勢をスタッフ間で共通確認する。

まわり

- ・ 3人に1人以上のスタッフ配置
- ・ 児童を迎える事前準備の徹底

- ・ 宿題が早く終わった子への適切な声かけの工夫

- ・ 事業所へ到着後の動線誘導の再確認
- ・ 送迎車内での事前声かけの工夫
- ・ 当日の支援に関わるミーティングの充実

## Point③

望ましい行動を身に付けさせる



長期的な見通しをもって対応します！

# 望ましい行動を身に付けさせる

## ステップ ①

- ① 行動問題の発生を回避する支援力

状況と時期の適切な見立て



## ステップ ②

- ② 望ましい行動を身に付けさせる

- ① **不適切行動を減らす・なくす 「消去」**
  - ・ 不適切な行動の頻度を下げる（＝強化しない）
- ② **望ましい行動を新たに獲得させる 「シェイピング」「SST」**
  - ・ これまで持っていなかった行動を出現させ強化する
- ③ **獲得した行動を維持させる 「強化スケジュール」**
  - ・ 一度獲得した行動が弱化・消去されないよう維持する
- ④ **獲得した行動を般化させる 「分化強化」**
  - ・ ある限定場面だけで行動が起きるのではなく、他の別の場面でも行動が起きるようにする
- ⑤ **獲得した行動の自立度を高める 「フェイディング」**
  - ・ 他者の依存ではなく自分の力で行動する部分を増やす

# 子どもの自主的・自発的・主体的な活動



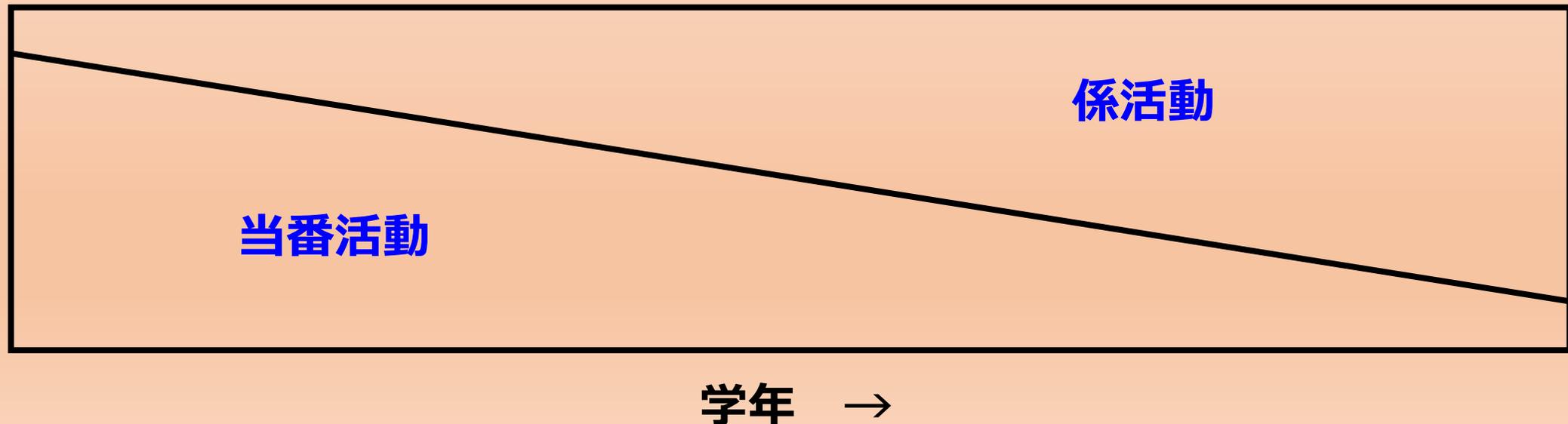
子ども自らが考え・動く



## 当番活動と係活動

**当番活動**：集団になくてもはならない役割  
給食当番 掃除当番 など

**係活動**：集団になくてもよいがあるとよい役割  
新聞係 クイズ係 イベント係 など



	「当番活動」は？	「係活動」は？
ねらいはなんですか？	日々の学級や学校の生活を維持すること	児童の力で学級生活を豊かにすること
内容の区分は？	活動内容（2） 自主的、実践的な活動	活動内容（1） 自発的、自治的な活動
当番や係の種類をどうやって決めるのですか？	目標を踏まえて先生が決めます。 自主的、実践的な内容だからです。「日直」、「清掃当番」、「給食当番」、「栽培当番」など、なければならぬ学級経営の補助的な内容です。	児童が話し合っ決めて決めます。 自発的、自治的な内容だからです。（その係が）なくて困るというものではないけれど、学級生活を豊かにする、児童の豊かでユニークな発想に基づく係を設け、自発的、自治的な活動を行うことが求められている内容です。

## 当番活動

## 係活動

望ましい活動にするにはどのようなことに気を付けなければいいですか？

学校や学年の方針、及び学級の計画に従い、児童会活動と連携させたりして、下記に配慮して活動させましょう。

- ① 当番活動の役割や働くことの意義などをしっかり理解させましょう。
- ② 学級や学校に貢献していることが実感できるようにしましょう。
- ③ みんなのために毎日一生懸命働く経験を通して、キャリア教育の一環として働くことの大切さや意義を理解させていきましょう。
- ④ 望ましい勤労観・職業観を育て、公共の精神を養い、社会性の育成を図っていきましょう。

係活動のねらいが達成できるようにしていきましょう。

具体的には

- ① 自発的、自治的活動であることを踏まえて、児童が話し合っただけの活動を尊重して指導に当たりにしましょう。
- ② 係の人数を制限せず、児童の希望を尊重しましょう。ひとつの係に多くの希望があったときは、運営を工夫させましょう。ただ、ひとりだけの係は望ましくありません。複数以上で活動させるようにしましょう。
- ③ 児童会の下部組織ではないので児童会の組織と関連づけないようにしましょう。係活動は学級独自です。
- ④ 活動に必要な、「お知らせ等を掲示するスペース」、「掲示物をつくるための材料や道具等」を、児童がいつでも自由に使えるように準備しておきましょう。